

【英語】

～ClassPad.net のテキストふせん・同時編集機能を活用する～

日本の昔話を英語で伝える授業

Let's retell a Japanese folktale!

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：英語独特の文章構成について理解させる。生徒自身のことばで物事を説明できるようにする。

生徒向けの目標：日本の昔話を、接続詞（First、 Second、 Finally など）を用いて論理的に再構成し、英語でリテリングすることができるようになる。グループ活動を通して、他者と協力して意見をまとめ、英語で表現しようとする気持ちを育む。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **生徒の理解促進** ：英語特有の文章構成について、ファイルふせんやリンクふせんを通じて視覚的に提示し、より深く理解させることができる。
- ・ **生徒の集中力アップ**：リンクふせんを利用した映像コンテンツを含むため、視覚的にイメージを膨らませることで、授業に集中しやすくなる。
- ・ **板書時間削減** ：板書内容にあたるものをあらかじめ各種ふせんに作成して表示することで、時間を大幅に削減することができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【授業説明】

- 日本の昔話を英語で伝えよう
- ・ 昔話「桃太郎」の概要を英語で伝えよう。
 - 特定の部分のみではなく、物語全体が理解できるように伝えよう。
- First
- ・ 英語特有の文章構成を理解しよう
- Finally
- ・ 接続詞を効果的に用いよう！

目標の説明

英語特有の文章構成の理解と、それを利用した表現に挑戦するという授業の目標を共有し、シチュエーションを想像させる。

step2



授業概要の説明

プロジェクター等で桃太郎の絵を投影しながら、授業で実践するアクティビティについて説明する。「桃太郎のものがたり全てを理解できるような構成にすること」「この物語を初めて聞くひとにもわかるような説明にすること」など、取り組む際の留意点について説明する。

桃太郎の物語に関連するイラストを用意しておき、ファイルふせんにしてプロジェクターや電子黒板を用いて投影する。

step3

英語版

Once upon a time, there lived an old man and an old woman. One day, the old man went to the mountains to gather firewood, and at the same time, the old woman went to the river to do laundry. Then, a giant peach came floating down the river.

時を表す表現・接続詞を上手く活用しよう！

教員によるモデルロール

step2 で説明した内容について教員が手本を見せることで、生徒に具体的なイメージを与える。このとき、接続詞はジェスチャーなどを交えながら発音し強調したい。

また、使用した接続詞についての説明は次の step で解説することを予告する。

教員は事前に作成したモデルロール用のデジタルノートを活用し、プロジェクターや電子黒板を用いて投影しながらデモンストレーションを行う。

step4

●接続詞の効果的な使い方

- ①文章構造を明確にする
→読み手にとって理解しやすい文章にする
- ②文章のリズムを整える
→文の長さやリズムを整えることができる
- ③繰り返しの表現をさける
→文章が自然になる

接続詞の解説

接続詞が内容理解において重要な役割を果たしていることを、視覚的な効果を利用して説明する。また、頻繁に用いられる接続詞や教員が考える重要語句などの紹介も行う。

具体的な文章を複数枚のテキストふせんに分けて説明することで、接続詞が文章全体において重要な役割を果たしていることを強調する。

step5

<グループワーク①>

・文章の構成を考えてみよう

・文章の作成はまだ行わない
→物語のどの部分(要素)をピックアップする必要があるか
(例)「きびだんご」をピックアップする？ しない？

・まずは個人で考えてみよう
→自ら考え、のちのグループワークで相談しよう

・『桃太郎』を初めて読む人にも理解できる
内容にすることを意識しよう！
→物語の全体を紹介するように！

グループワーク①

クラスを3～4人のグループに分けて活動を行う。生徒が自ら考え、相談し、文章の構成を考える時間を確保する。この段階では、具体的な文章の作成は行わず、物語のどの部分をピックアップするべきかという観点で考えてもらう。また、教員は議論のファシリテーター的役割に徹するようにする。

生徒には EX-word ふせんを用いるようアドバイスし、さまざまな単語を使用しながら、文章を複数枚のテキストふせんで構成させるようにする。その際、同時編集機能を用いるように指導する。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step6

<グループワーク②>

・考えた構成に合わせて、『桃太郎』を紹介する英文を作成しよう

・グループで1つの文章を作成

・「はじめて『桃太郎』を読む人にも伝わるか」
「スライドはわかりやすかったか」
「必要な情報をピックアップできているか」
「文章として不自然ではないか」
などの観点でワークシートに記入しよう！
協力して英文を作成しよう！

グループワーク②

具体的な文章の作成に取りかからせる。その際、個人ではなく、グループで1つの文章を作らせる。教員は各グループの進行状況を確認しながら、作成上のヒントなどを生徒に適宜与えていく。

step5 と同様。

step7

<各グループによる発表>

・各グループで分担しながら作成した文章を発表してもらおう！

・「その場所に行きたくなかったか」
「スライドはわかりやすかったか」
「発表者の態度・声量」
などの観点でワークシートに記入しよう

・フィードバックを忘れずに行おう！

発表

各グループで分担しながら作成した文章を発表する。この際、振り返り・反省を行うためのワークシートを作成し、生徒に配布することで、フィードバックを実施できるようにする。必要に応じて教員からも補足や解説を加える。

事前に Word 等でワークシートを作成しておき、ファイルふせんにしたものを授業支援機能で生徒に配布する。生徒には手描き機能でワークシートに記入してもらい、発表したグループの生徒に授業支援機能で送信させる。発表するグループの生徒には、端末をプロジェクターや電子黒板に繋いで、step5～6 で作成したふせんを投影しながら発表させる。

step8

<宿題>

○フィードバックの内容を踏まえて作成した英作文を修正しよう

Check ✓

デジタルノートを直接修正しないこと
→コピーしたものを修正し、修正前のもの・修正後のものを両方提出！

全体講評・宿題

教員から授業全体の講評を行う。その際、接続詞を使うことの重要性を強調し、今回の学習の汎用性を示す。また、冒頭で提示した目標が達成できたかを確認する。

本授業のポイントをまとめたテキストふせんをプロジェクターや電子黒板を用いて投影し、改めて重要事項を確認する。

step9

<参考>

英語の文章構造を理解することは、プレゼンテーションをする際にも有効です。

次の動画を視聴しながら、「どのような点を伝えようとしているのか」「どうすればわかりやすい話をすることができるのか」と考えてみましょう。

参考・補足

英語の文章構造が、プレゼンテーションの際にも有効であるということを示す内容の動画を提示する。発展的内容であるが、応用力を身につけるという観点で有効なものとなっている。

以下のような動画の URL を貼り付けたリンクふせんを用意し、授業支援機能を用いて生徒に配布する。

「【完全保存版】英語プレゼンの頻出フレーズ！プレゼンの始めから締めまで全解説」

(<https://youtu.be/EPHl9s69Dl0?feature=shared>)